

震災時の外国人に対する支援策についての研究 —盛岡市における日本人との比較研究—

学生会員 ○ママット ユスフジャン※¹ 正会員 南正昭※² 平井寛※²

1. 背景と目的

日本に居住する外国人は、地震についての知識や経験の乏しさや言葉等の問題のために地震発生時において災害弱者¹⁾となる場合が多いと考えられる。しかし先行研究において、外国人の地震発生時の行動や避難時に生じる不利を明らかにしたものは少ない。そこで本研究では盛岡市在住の外国人と日本人を対象にアンケート調査を行い、東日本大震災において外国人が日本人に比べて地震発生時に正しい行動を選択できなかったり、避難時に不利を感じたりしているかを明らかにして、解決方法を考えることを目的とした。

2. 研究方法

2.1 調査方法

2011年9月28日から11月5日にかけて、岩手県盛岡市において、盛岡市在住の外国人留学生、日本人学生を対象にアンケート調査を行い、外国人留学生43人、日本人学生52人から回答を得た。調査内容は東日本大震災時の避難行動、避難生活または地震経験、知識等であった。

2.2 分析内容

外国人と日本人を比較し、地震発生時に正しい行動をとれているか、避難状況、避難生活においてどのようなことで困っているかに違いがあるかをみた。

地震防災対策百科²⁾によれば、地震発生から5分以内では「慌てて外に出たりせずに、落下などから身を守るためにテーブルや机下などに隠れて様子の確認する」「窓の近くや大きな棚（本棚や食器棚）から離れる」、「火気のある場所（台所）の火の始末をする」、「避難口の確保」を行い、5分～10分後には、テレビやラジオでの情報収集を行い、避難するかどうかを判断することを推奨している。

3. 調査結果

3.1 地震発生後の行動（図1）

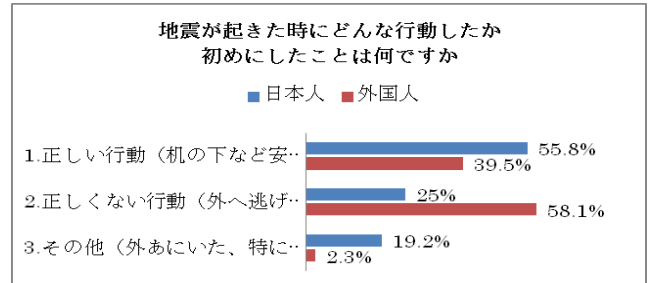


図 1

地震発生後、「外に逃げた」、「地震の恐れで如何すれば良いのか動けなかった」など正しくない行動をとった人の割合は外国人で58.1%、日本人で25%であった。図中の「その他」は「外にいた」、「特に何もしてない」等である。

3.2 避難状況

今回の震災で避難所に避難した人の割合は、日本人の13.5%（7人）に対し、外国人で79.1%（34人）と外国人が多かった。外国人が避難した場所は体育館、公民館、学校等が多く、避難していた日数は三日間以内と回答した人が約30%と最も多かった。

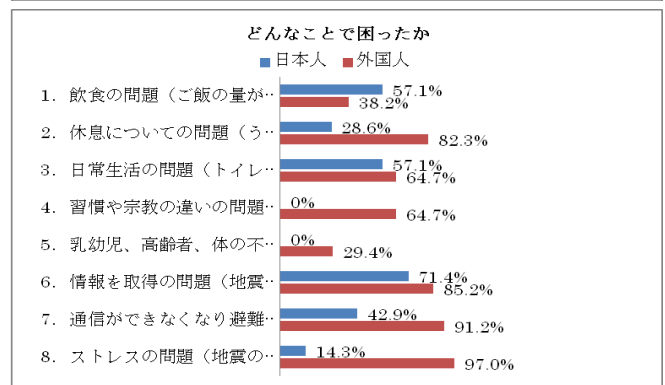
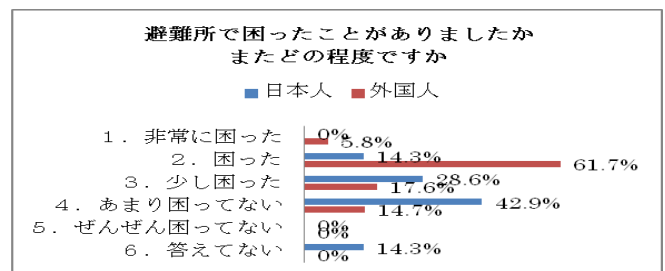


図 2

3.3 避難所での困りごとの程度（図2）

避難所でどの程度で困ったかと聞いたところ、外国人は「非常に困った」「困った」「少し困った」と回答した人の割合が合わせて 85.2%であったのに対し、日本人は 42%と、半分程度しかみられなかった。

3.4 避難所での困りごとの種類（複数回答）

困りごとの内容をみると、「ストレスの問題」については、外国人では 97%（33 人）と最も多かった。その中で「地震の心配」と答えた人は 29 人、「避難所で悩んだり精神的ストレスを感じたことがあった」が 20 人であった。これに対し日本人は 14.3%で 8 分の 1 程度であった。

外国人の困りごとの内容で次に多かったのは「通信ができなくなり避難している状況や環境を（国の）家族に知らせることができなくて困った」答えた人が 91.2%であった。これに対しても日本人は 42.9%と少なかった。

「習慣や宗教の違いの問題（22 人 64.7%）」については、「食事で口に入れられないものがある（イスラム教）」答えた人が 19 人、「習慣や宗教の違いで日本人といっしょに避難生活をする中で困った」と答えた人が 12 人であった。

また「休息についての問題（28 人、82.3%）」と回答した人のうち、「寝る所が狭い」と「寒い」答えた人がともに 14 人であった。

その他、外国人と日本人共通で多かった困りごとの内容は、「情報の取得の問題（外国人で 85.2%、日本人で 71.4%）」であった。このうち「情報を得る手段なかった（テレビ、ラジオ、新聞、等物なかった）」と答えた（外国人 15 人、日本人 5 人）で、「日本語能力の問題で情報が理解できなかった」と答えた人が 17 人であった。

4. 考察

4.1 避難行動について

地震発生直後、日本人に比べて外国人は外に逃げたり、地震の恐れで如何にすれば良いのか動けなかったりなど、危険性の高い行動をした人が多かった。この要因として、経験や正しい行動についての知識が日本人に比べて少ないことが考えられる。

外国人の地震について経験を高めることは難しいが、知識を高めることは可能である。本調査のデー

タを用いて、地震防災訓練の参加の有無による震災時の行動の違いをみたところ、外国人の中でも地震防災訓練に参加した 15 人中 10 人が正しい行動をとれていた。地震についての知識を高めることで震災時に起きる危険な行動を減らすことができると考えられる。

4.2 避難生活について

今回の震災で盛岡市に滞在している多くの外国人が体育館、公民館また学校に三日間ぐらい避難生活をしていた。その原因は地震の経験が少ないことからくる不安、停電や寒さなどであると考えられる。

4.3 避難所での困りごと

多くの外国人が日本語能力の問題で震災の報道を十分理解できないこと、そして地震の心配がありパニックなる可能性が高いために、精神的なストレスがたまりやすかったと考えられる。また外国人と日本人が集団避難生活をした際、民族、宗教、生活習慣等の違いで外国人が困る可能性が高いと考えられる、例えば避難した外国人の中でマレーシア人や中国の一部にいるイスラム教の人たちは、宗教的な理由により避難所で支給された食べ物中で食べられない物があり仕方なく偏食をした人もみられた。その他、外国人特有の問題ではないが、寝る所が狭い、寒い、トイレが混んでいた等ことで困った人が多くみられた。

5. まとめ

外国人の避難生活における困難性を減らすためには、外国人専用の避難所や、避難所の中に 1 つのスペースを外国人専用として設けることが文化や食事の困難性への対策として有効であると考えられる。また、多くの外国人が集まった避難所では、やさしい日本語を使って事情を説明できる人を配置することが、情報の取得の問題への対策として有効であると考えられる。

参考文献

- 1) 吉田直之、長谷見雄二、古川容子：3014 災害弱者としての危険性及び対策に関する調査研究、社団法人日本建築学会（71）、pp.353-356、2001.3
- 2) 地震防災対策百科ホームページ、地震発生直後の 5 つの基行動 <http://bousai.321smile.net/250/>、2005